



ここが気になる？セルフ・チェック

今回は強皮症（全身性硬化症）とケロイドです。

膠原病は肺線維症（別名、間質性肺炎とも言います）を合併しやすく、それを膠原病肺と言います、ややこしいですね。その中で肺線維症を最も合併しやすい膠原病が強皮症です。皮膚も肺も線維化して硬くなるのです。また、これはあまり知られていませんが、次いで合併しやすいのは関節リウマチです。どちらも肺線維症を合併しますと予後が悪い、すなわち生命にかかりますので、早めに受診しましょう。

ケロイドは、鳥のカギ爪を意味するギリシャ語に由来し、和名は蟹足腫（かいそくしゅ）で、それぞれその様に見えるようです。肺がんなどで開胸手術を受けた患者さんによく発症しました。数個の穴を開けるだけで出来る胸腔鏡手術が開発される前は、開胸が基本で、皆、袈裟懸けに斬られた様な長さ20から30cmの傷が背中にでき、それがケロイド化して黒紫色の太い縄が背中に張り付いている様になっていました。痒い、シャツが触るだけで痛いなどの訴えがあり、何とも可哀想でした。ケロイドは形成外科できれいにしてもらいましょう。

呼吸器内科医師 坂東 憲司

強皮症（全身性硬化症）

寒くなると手先が冷たくなって「真っ白（蠟のように）」になりませんか？

YES NO

便秘がひどく胸焼けがつつきませんか？

YES NO

乾いた咳や軽い動作で息が切れませんか？

YES NO



膠原病内科 部長 中澤 隆

寒冷による四肢末端の冷え症の中で、指先が蠟の様に白色化し、温めることにより戻る現象をレイノー現象といいます。これに加えて指が腫れぼったく（ソーセージの様に）曲げ難い（痛いわけではない）症状があると、強皮症という病気の危険性があるかもしれません。強皮症の場合、食道・胃腸の動きが鈍くなることがあり（胸焼け・便秘）、肺線維症を合併する（乾いた咳や息切れ）ことがあります。この病気は非常にまれな疾患ですが、上記の多くがあてはまる場合には、担当医に相談して必要な場合には膠原病内科受診を試みてください。

ケロイド・肥厚性瘢痕

けがをして半年以上たつのに、隆起や赤みが残り、目立つ。

YES NO

傷跡にときどき、かゆみや痛みを感じることもある。

YES NO

けがの傷跡やニキビ跡が、もとの範囲を越えて広がった。

YES NO



形成外科 部長 宗内 巖

けがなどが原因でできる傷跡のうち、隆起があるものを肥厚性瘢痕といい、さらに瘢痕組織がもとの範囲を越えて過剰に増殖し、腫瘍様となったものをケロイドといいます。前胸部・肩甲部・恥骨部・耳垂部などが好発部位で、整容的問題に加え、かゆみや痛みなどの不愉快な自覚症状を伴います。体質的要因が大きいとされますが、医療が進歩した昨今にあっても、その原因は解明されておらず、根治的治療も確立したものはありません。当科では、エラストグラフィー（組織硬軟性を色彩として可視化する超音波撮影法）を用いてより詳細なケロイドの病態評価を行い、よりの確な治療につなげる先進的な試みを行っています。